

ECO I labo 実験室で ホルムアルデヒド VOCの測定実験環境



化学物質濃度調査用グローブボックス設置



グローブボックス

今回作成したグローブボックスは空気中の化学物質の測定を目的としているため、ガラスを使用した。

サイズ 内径 500mm の立方体

実 m^2 、 m^3 の換算計算をしやすくした

接着剤 POTOボンド

対象化学物質を含有していない

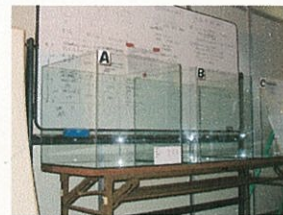
上蓋 密閉・オープンのを調べるため、接着せず

壁・床 $t=8mm$ 、長さ 480mm の石膏ボードを使用
壁は3壁とする(開放部 25%)

発行:環境対応企画室
ふじ瓦版は当社の社内報です
回覧後指定の場所にファイル

グローブボックスは3セット

実証実験は以下の手順で行うため3セット用意



例) 施工後の環境による化学物質の放散量の差(効果)カクニン

時間経過		A	B	C	備考
狙い		施工後密閉された環境	換気されている環境	特殊な対策がとられている環境	
施工時	環境設定	対象部材・環境の設定 Cには対策施工			接着剤・部材等標準施工であること
	上蓋	クローズ	オープン	クローズ	Bは1日2回強請換気を行う
	濃度調査	測定	測定せず	測定せず	
1ヶ月or 2週等	濃度調査	測定	測定	測定	測定前に30分換気 測定は24hのパッシブ法 測定バッチFとVを使用
2ヶ月or 4週等	濃度調査	測定	測定	測定	
予測濃度		>	>	>	
備考		施工後の対象部材の時系列の放散量実測地	室内換気効果	対象対策品の効果測定 光触媒 セラミックス 珪藻土 バイクアウト法等	対応策の効果データを求められる

実験を行う理由・目的

1. 化学物質は時間経過とともに放散量が減少するデータがあるが、実際の施工環境データがない
2. 各種の対策が紹介されているが、測定方法・環境が不明確であり、確証が得られていない
3. メーカーのデータは組成成分データであり、施工後の測定データとの差異を検証できない
4. 複合する対象材を分解検証することにより、その原因を特定できる

以上の理由から、今後、各種の検査データを蓄積することにより、施工前の部材・副資材の選定や施工後の対応策が明確になる